

タブ 1

Chrome拡張 × スプレッドシート連携 完全ガイド(GAS 必要バージョン)

このドキュメントは、拡張機能を利用するユーザーが 自分のスプレッドシートにデータを送れるようにするための設定手順 を、誰でも迷わず実行できるように整理したものです。

この拡張機能は GAS(Google Apps Script)が必要です

理由: 拡張機能 → GAS(Webアプリ) → スpreadsheet という構成で動作しているため。

→ ユーザーが自分のシートを作った場合、毎回そのシートIDを GAS に設定し直す必要があります。

設定の全体フロー

1. 拡張機能を Chrome に読み込む
 2. スpreadsheetを新規作成する
 3. GAS を作成し、シートと紐づけて Webアプリとして公開
 4. 拡張機能に Web アプリ(/exec) のURLを設定
 5. 動作確認
-

1. 拡張機能を Chrome に読み込む

1. GitHubからZIPをダウンロードし解凍
2. 以下をChromeのURLバーに入力:

chrome://extensions/

3. 右上「デベロッパー モード」をON
4. 「パッケージ化されていない拡張機能を読み込む」を押し、解凍したフォルダを選択

※ manifest.json がフォルダ直下にあればOK



2. 自分のスプレッドシートを作成する

1. Googleスプレッドシートを新規作成
2. URLの `/d/` と `/edit` の間の値を シートID として控える

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/ここがシートID/edit>

3. ヘッダー行(A1～)に好きな項目名を入れる(例:イベント名 / 日時 / 場所 / URLなど)
-



3. GASを作成してシートと接続する

■ GASプロジェクト作成

1. <https://script.google.com> を開く
2. 「新しいプロジェクト」をクリック
3. リポジトリ内の `google-apps-script.js` の内容をすべて貼り付ける

■ シートIDを設定

コード内:

```
const spreadsheetId = "YOUR_SHEET_ID";
```

ここを あなたのシートIDに置き換える

■ Webアプリとして公開

1. 右上「デプロイ」→「新しいデプロイ」
2. 種類: ウェブアプリ
3. 設定:
 - 実行ユーザー: 自分
 - アクセス: 全員(匿名ユーザーを含む)
4. 「デプロイ」→承認 → 完了
5. 表示されたURL(末尾 /exec)をコピー

例:

<https://script.google.com/macros/s/XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX/exec>



4. 拡張機能と紐づける

1. Chrome右上の拡張機能アイコンをクリック
2. 拡張機能のポップアップを開く
3. 「設定」メニューを開く
4. GAS Webアプリ(/exec)URL を入力し、保存

注意: 必ず `/exec` を使う(`/dev` は不可)



5. 動作確認

1. こくちーずプロのイベントページを開く

2. 拡張機能アイコンを押し「情報を抽出」を実行
 3. 正しく取れていれば「スプレッドシートへ送信」をクリック
 4. シートの2行目以降にデータが追加されれば成功◎
-

！トラブルシュート

- シートに書き込まれない
 - GASのURLが `/exec` ではない
 - GASが「全員に公開」になっていない
 - シートIDが間違っている
 - コードを変更したのにデプロイし直していない
- エラー「権限がありません」
 - あなた自身のGoogleアカウントでGASを実行しているか確認
 - シートの共有権限が正しいか確認
- 抽出はできるが送信できない
 - GASのURLが古い(再デプロイしてURLが変わった可能性)

📌 重要: ユーザーがシートを作り直したときの対応

✓ 新しいシートIDに変わると GAS 側の設定も変更が必要

必要な作業:

1. GASの `spreadsheetId` を書き換える
 2. Webアプリを 再デプロイ する
 3. `/exec` の新URLが出た場合、それを拡張機能に再設定
-

✉ サポート & カスタマイズ

ツールを自社用に最適化したい方、GAS不要バージョンの開発依頼などはこちら：
ryoumori38@gmail.com** (森)**

お気軽にご相談ください！

以上が、ユーザーが自分のスプレッドシートにデータを流し込むための完全ガイドです。

タブ 2

Chrome拡張のダウンロード&導入マニュアル(完全版)

このマニュアルでは、以下の手順をすべて解説します。

1. Chrome拡張ファイル(ZIP)のダウンロード方法
 2. ZIPの解凍方法
 3. Chromeへの拡張機能インストール方法
 4. GoogleスプレッドシートとGAS(Google Apps Script)の連携設定【詳細版】
 5. よくある質問(FAQ)
-

① Chrome拡張のダウンロード方法

この拡張機能は、GitHubからZIPファイルとして配布されています。
以下のURLからダウンロードしてください。

ダウンロードURL

https://github.com/ryo1415/chrome-extension-event-scraper/releases/download/v1.2/Chrom_v1.2.zip

△ 重要: このURLを「Google検索欄」に入れて検索しないでください。
必ずブラウザ上部の アドレスバー に直接入力するか、リンクをクリックしてアクセスします。

▼ 正しいアクセス方法

方法①: リンクをクリックする(いちばん簡単)

- 上のURLリンクをそのままクリックします。
- ブラウザがGitHubにアクセスし、自動的に ZIP ファイルのダウンロードが始まります。

方法②: アドレスバーに直接貼り付ける

1. Chromeを開く
2. 画面一番上の アドレスバー をクリック

次のURLをコピー & ペースト

<https://github.com/ryo1415/chrome-extension-event-scraper/releases/download/v1.2/Chrom.v1.2.zip>

- 3.
4. Enterキーを押す
5. ZIPファイルのダウンロードが始まればOK

 NG例:

- Googleのトップページや検索結果で、真ん中の「検索ボックス」にURLを入れてしまう
- そのまま検索して「一致する情報が見つかりません」と表示される

これらは「検索ワード」として扱われてしまうため、正しくダウンロードできません。

② ZIPファイルの解凍方法

ダウンロードしたファイルはZIP形式なので、解凍してフォルダを取り出します。

Windows の場合

1. ダウンロードした `Chrom.v1.2.zip` を右クリック
2. 「すべて展開」を選択
3. 展開先フォルダを指定して「展開」をクリック
4. `Chrom.v1.2` というフォルダが作成されればOK

Mac の場合

1. ダウンロードした `Chrom.v1.2.zip` をダブルクリック
2. 自動的に `Chrom.v1.2` フォルダが作成されます

※ 解凍後にできた フォルダごとを、後でChromeに読み込ませます。
フォルダの中身はいじらなくてOKです。

③ Chrome拡張機能のインストール方法(手動)

Chrome Web ストア経由ではなく、手動でインストールします。

1. 拡張機能管理画面を開く

Chromeのアドレスバーに以下を入力し、Enter を押します：

`chrome://extensions/`

2. 右上の「デベロッパーモード」をONにする

- 画面右上にある「デベロッパーモード」のスイッチをON(青色)にします。

3. 「パッケージ化されていない拡張機能を読み込む」をクリック

- 画面左上付近にあるボタン「パッケージ化されていない拡張機能を読み込む」をクリックします。

4. 解凍してできたフォルダを選択

- ファイル選択ダイアログが開いたら、先ほど解凍した `Chrom.v1.2` フォルダを選択し、「開く」をクリックします。

5. 拡張機能が追加されていることを確認

- 拡張機能一覧に、このツールの名前が表示されていればOKです。
 - Chrome右上の拡張機能アイコン(パズル型)からピン留めすると、常に表示されて使いやすくなります。
-

④ Googleスプレッドシート & GAS との連携設定【超詳細】

ここが一番つまずきやすいポイントです。

「スプレッドシートの準備 → GASの作成 → Webアプリとして公開 → 拡張機能にURLを登録」という流れで進めます。

4-1. スpreadsheetの準備

1. 新しいスプレッドシートを作成

1. Googleドライブを開く
2. 左上の「+ 新規」→「Googleスプレッドシート」をクリック
3. シート名を分かりやすい名前に変更(例: こくチーズ分析)

2. ヘッダー行(1行目)を作成

1行目に、取得したい項目名を入力します。例:

- A1: イベント名
- B1: 開催日
- C1: 開始時間
- D1: 終了時間
- E1: 参加者数
- F1: 場所

- G1:URL
- H1:メモ

※ 実際のツール仕様に合わせて、必要な項目名・順番にしてください。

※ ツール側で決めたテンプレートがある場合は、必ずそのテンプレートと同じ項目名・列順に合わせます。

4-2. スプレッドシートIDの確認

あとでGASや拡張機能からシートを特定するために「スプレッドシートID」を使います。

1. 作成したスプレッドシートを開きます

ブラウザのアドレスバーにあるURLを確認します

例:

`https://docs.google.com/spreadsheets/d/1AbCdEfGhIjKIMnOpQrStUvWxYz1234567890/edit
#gid=0`

- 2.

`/d/` と `/edit` の間の部分が スプレッドシートID です:

`1AbCdEfGhIjKIMnOpQrStUvWxYz1234567890`

- 3.
 4. このIDをメモ帳などにコピーしておきます
-

4-3. GAS(Google Apps Script)を作成

1. スプレッドシートからスクリプトエディタを開く

1. スpreadsheet画面の上部メニューから
「拡張機能」→「Apps Script」をクリック
2. 新しいタブでGoogle Apps Scriptの画面が開きます

3. 画面左上のプロジェクト名を分かりやすい名前に変更(例: こくチーズ連携スクリプト)

2. 初期コードを削除

- エディタ内に `function myFunction() { ... }` が書かれている場合、それをすべて削除します。

3. 提供されたスクリプトを貼り付け

- 拡張機能用に用意されたGASコード(データを受け取ってシートに書き込む処理)を、エディタにそのまま貼り付けます。
- 例として、一般的な構成は以下のようになります:
 - `doPost(e)` 関数で拡張機能から送られてきたデータを受け取る
 - 対象のスプレッドシートとシートを開く
 - `appendRow()` などで1行ずつデータを書き込む

※ ここに貼り付ける具体的なコードは、ツール配布元から別途共有されることを想定しています。

利用者は「コードを丸ごとコピー & ペーストする」だけでOKな形にしておくと安心です。

4. スプレッドシートIDやシート名を設定

スクリプト内に、以下のような設定箇所がある場合があります:

```
const SPREADSHEET_ID = 'ここにスプレッドシートID';  
const SHEET_NAME = 'シート名';
```

- `SPREADSHEET_ID` に、先ほどメモしたスプレッドシートIDを貼り付けます
- `SHEET_NAME` に、実際のシート名を入力します(例: シート1 → こくチーズ一覧 など)

設定を変更したら、**Ctrl + S**(または⌘ + S)で保存します。

4-4. GASをWebアプリとしてデプロイ(公開)

Chrome拡張がGASにデータを送るには、GASをWebアプリとして公開し、そのURLを拡張機能側に登録する必要があります。

1. デプロイ画面を開く

1. Apps Script画面右上の「デプロイ」ボタンをクリック
2. 「新しいデプロイ」を選択

2. デプロイの種類を設定

1. 「種類を選択」をクリック
2. 「ウェブアプリ」を選択

3. Webアプリの設定

- 説明:任意(例: [こくチーズ連携API](#))
- 「実行するユーザー」:自分(自分のメールアドレス)
- 「アクセスできるユーザー」:全員もしくは匿名ユーザー

※ 不特定多数のChromeからアクセスさせたい場合は「全員」や「匿名ユーザー」を選択します。

組織内だけで使う場合は、適宜制限をかけてください。

設定ができたら、「デプロイ」ボタンをクリックします。

4. WebアプリのURLをコピー

- デプロイが完了すると、ダイアログに「WebアプリのURL」が表示されます。
- そのURLをコピーして、メモ帳などに保存しておきます。

例:

<https://script.google.com/macros/s/abcdefghijklmno1234567890/exec>

4-5. Chrome拡張とGASを連携させる

最後に、Chrome拡張の設定画面に、先ほどの WebアプリURL と必要な情報を登録します。

※ 以下は一般的な手順のイメージです。実際の拡張機能に合わせて、設定項目名は調整してください。

1. 拡張機能のオプション画面を開く

1. Chrome右上の拡張機能アイコン(パズルマーク)をクリック
2. 対象の拡張機能の右側にある「:(メニュー)」をクリック
3. 「拡張機能をオプション」または「設定」をクリック

2. 設定項目に必要な値を入力

- GAS WebアプリのURL: 先ほどコピーしたURLを貼り付け
- スプレッドシートID: 4-2で確認したIDを貼り付け
- その他、拡張機能に応じた設定(シート名、開始行など)があれば入力

3. 設定を保存

- 「保存」ボタンなどがあればクリックして保存します。

4. 動作テスト

1. ごくチーズの管理画面など、データを取得したいページを開く
2. 拡張機能のアイコンをクリック
3. 「データ取得」「スプレッドシートに送信」などのボタンを押す
4. スpreadsheetを確認し、1行データが追加されていれば成功です！

⑤ よくある質問(FAQ)

Q1. URLを開いてもダウンロードが始まいません

- Google検索欄にURLを入れていないか確認してください。
 - 必ず ブラウザ上部のアドレスバーに直接入力するか、リンクをクリックしてアクセスします。
-

Q2. 拡張機能を読み込もうとするとエラーになる

- 解凍したフォルダを選んでいるか確認してください(ZIPファイルのままはNG)。
 - フォルダの中に `manifest.json` ファイルがあるか確認してください。
 - フォルダ構成を変えてしまった場合は、もう一度ZIPを解凍し直してください。
-

Q3. スプレッドシートにデータが反映されません

1. GASが正しくデプロイされているか
 - Apps Scriptで「デプロイ」→「デプロイの管理」から状態を確認
 2. 拡張機能の設定画面で、
 - WebアプリURL
 - スプレッドシートID
 - シート名
に誤りがないかチェック
 3. ブラウザのコンソールや拡張機能のエラーメッセージが出ていないか確認
-

Q4. 権限の承認画面が出たけど、どうすればいい？

- 初回アクセス時は、GASがスプレッドシートにアクセスするための権限をGoogleが確認します。
 - 内容を確認し、問題なければ「許可」をクリックしてください。
-

⑥ お問い合わせ

本ツールに関する質問・不具合報告・カスタマイズ依頼などは、以下よりご連絡ください。

-  お問い合わせフォーム: * * * (URLを記入)
 -  詳細マニュアル・最新情報ページ: * * * (URLを記入)
-

以上で、Chrome拡張のダウンロードから、スプレッドシート・GASとの連携設定までの手順は完了です。